

The background features a series of overlapping, flowing, organic shapes in various shades of green and light blue. These shapes create a sense of movement and depth, with some areas appearing more saturated than others. The overall effect is a clean, modern, and somewhat ethereal aesthetic.

開催準備編

実行委員会

平成30(2018)年7月23日、第77回国民体育大会大田原市準備委員会を設立し、大会開催に向けた準備が本格的にスタートしました。翌令和元年8月22日には組織を改正し、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会大田原市実行委員会へと改称しました。

実行委員会では、常任委員会と4つの専門委員会（総務企画、競技式典、宿泊衛生、輸送警備）において、具体的な協議を進めました。



設立発起人会



設立総会、第1回総会



常任委員会



総務企画専門委員会



競技式典専門委員会



宿泊衛生専門委員会



輸送警備専門委員会

花いっぱい運動

市内小中学校の児童生徒が育てた4, 800株の国体推奨花（ペゴニア、ニチニチソウ、マリーゴールド、ペチュニア、メランポディウム）に、選手・監督に向けた応援メッセージを添えたプランター300基が各会場を彩り、多くの来場者を温かく迎えました。



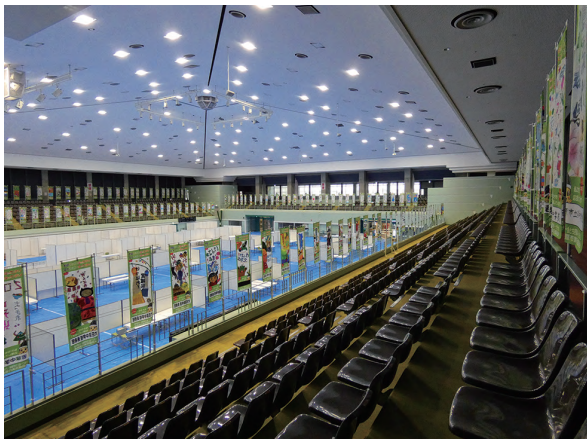
花いっぱい運動

市内小中学校の児童生徒が育てた4, 800株の国体推奨花（ペゴニア、ニチニチソウ、マリーゴールド、ペチュニア、メランポディウム）に、選手・監督に向けた応援メッセージを添えたプランター300基が各会場を彩り、多くの来場者を温かく迎えました。



手作り応援のぼり旗

市内小中学校の児童生徒が、各都道府県の名物や方言を使ったメッセージなどで心のこもった旗、47都道府県4会場分、合計188枚を制作しました。



広報・啓発活動

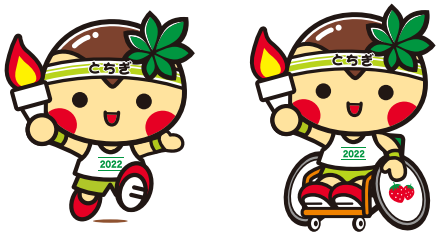
国体開催を多くの市民の皆さんに知っていただくため、大田原市イメージキャラクター「与一くん」が先頭に立って、小学校などでのいちご一会ダンスや様々なイベントに参加し、PR活動を行いました。

また、地元高校生には「カウントダウンボード」や参加者記念品のタオルの制作に関わってもらうことで、記憶に残る活動となりました。



炬火イベント

大会の開催年となった令和4(2022)年には、6月26日開催の綱引競技、7月24日開催のスポーツチャンバラ、8月7日開催のダンススポーツの各会場で市民がマイギリによる火起こしを行い、3つの競技の火を一つに集め、9月11日開催のリレーマラソンで炬火リレーを行うことにより、大田原市の火が誕生しました。



歓迎装飾／グッズ



競技別リハーサル大会 (バドミントン競技)

